

私の消防団PRIDE

第一回 保土ヶ谷消防団 久保田団長
令和2年10月1日掲載

令和2年4月1日保土ヶ谷消防団長に就任いたしました久保田重雄と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

昭和17年保土ヶ谷警防団として発足し、その後制度、規定等の見直しを経て、昭和23年3月に現在の保土ヶ谷消防団となりました。78年の長い歴史と伝統のある消防団です。保土ヶ谷消防団の組織は4箇分団、23班、団員数は男性団員310名、女性団員74名、合計384名です。

団長に就任するにあたり、

- 1 【災害対応力の高い消防団】いつ発生するかわからない災害に対して更なる知識と技術を習得し、安全に自信をもって対応できる消防団
- 2 【区民のみなさまに愛される消防団】『我が町は我らで守る』の郷土愛の精神で日ごろから地域活動に参加して構築される関係をより強固にし、親しまれ、信頼され、愛される消防団
- 3 【カッコイイ消防団】幅広い年齢層、特に未来を担う若い世代の関心を引き出し入団につなげるカッコイイ消防団

以上3つのスローガンを掲げてのスタートとなりました。

とは言え、コロナ禍の影響で制限された団活動が続いております。

現在はコロナ対策を十分に施し、安全、安心に進めることのできる活動を実施しております。

一日も早い収束を願い、以前と変わらない活動（生活）ができるようになることを望むのは区民のみなさまと同じです。

火災、地震（首都直下含む）、風水害はいつ起こるかわかりません。

消防団の災害対応は火を消すのみならず、多岐、多様化した役割を担うようになりました。

貸与された資機材をフルに活用した対応が求められます。

平成25年12月に施行されました『消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律』その中で消防団は地域防災の中核と位置づけられました。

区民のみなさまから大きな期待を寄せられる中、ご期待に応えるべく、余念なく訓練に励んでおります。

最後に少し入団促進広報させてください。

このような役割を無事遂行していくには団員充足率を100%にしていかなければなりません。ただいま16人不足しております。男女問わず、18歳以上、勤務地、住居が区内にある方で消防団に関心のある方がおられましたら、ぜひ私たちと愛する保土ヶ谷のために一緒に活動してみませんか。

区内にお住いのみなさまの安心、安全の確保を目指し、穏やかな生活ができるように、最大限の力を注いでまいります。

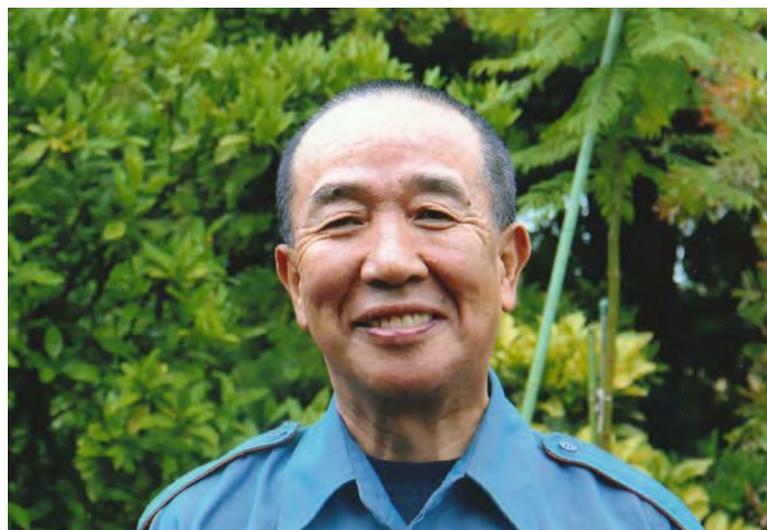
保土ヶ谷消防団よりよろしくお願い申し上げます。

趣味 森林浴

資格 (公社)日本空手協会5段

1級造園技能士

商業簿記2級



私の消防団PRIDE

第二回 保土ヶ谷消防団第一分団 新島班長

令和2年10月12日掲載

皆さんこんにちは。保土ヶ谷消防団第1分団2班の新島亮一と申します。

まずは、私が消防団に入団したきっかけからお話させていただきます。

私は入団するまで、消防署と消防団の区別がついてなくて、そもそも消防団に対する知識は全くありませんでした。

たまたま、消防団員である友人から消防団の集まりがあるから一緒に行こうと誘われて、ついて行ったら消防団の班会議でした。そこで色々とお話を伺って入団する事になりました。

初めて参加した訓練は、保土ヶ谷消防団全体で行われたホースの長距離延長訓練でした。貸与された活動服を着込んで意気揚々と出かけたものの、何をしたら良いのか分からないまま一生懸命他の団員がしている事を真似している自分がそこにいました。

しかい、近い将来必ず起こる大震災に備え、家族や地域の方々を守る為に少しでもお役に立てればと思いい訓練に参加し、今では、班長と言う責任ある立場になりました。立場柄、自治会の役員や地域の方々とは触れ合う機会が多くなり、少し大袈裟ですが人生の幅が広がった様に感じており、有意義な時間を過ごしています。

また、仲間の団員にも恵まれて、いつも楽しく消防団活動に参加させていただいております。

家族には、万が一災害が発生した際に皆んなが無事でいられるよう、消防団活動で得た知識を伝えて、日頃から意識を高めて欲しいと思っております。

仕事との両立と言う事については、私は既に定年退職しており、今はアルバイトで知人の仕事の手伝いをする程度なので、比較的自由時間があり、訓練やイベントなどにはよく参加しています。

その他にも、保土ヶ谷消防団の代表として、保土ヶ谷区民会議のメンバーに入れていただき、災害分科会に所属して多くの貴重な体験をさせていただいております。

今は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、イベントや訓練が自粛になっていますが、早く安心して皆んなが参加できるようになって欲しいと思っております。



私の消防団PRIDE

第3回 保土ヶ谷消防団第二分団 青木部長

令和2年10月28日掲載

皆さんこんにちは、保土ヶ谷消防団第二分団本部の青木亮祐といたします。

○ 入団のきっかけ

私は代々町火消しの流れを汲むとび職であり、祖父、父ともに消防団員であった家に生まれ育ちました。地元では祭礼やイベント等で中心となって動く若手が消防団員であったことから、何か自分自身も役に立ちたいという思いから、父の急死を受けて大学生時に入団をいたしました。

○ 団でやりたいこと

訓練や研修で個々がスキルアップしていくことはもちろん大事なことだと思いますが、有事の際一番大切なことはチームワークだと思っています。団活動はもちろんのことその他のことでもしっかりコミュニケーションを取って、班、分団そして団がワンチームになるような取り組みをしたいと思っています。

○ 団への熱い思い

現在44歳。大学生時より入団していますので現在の時点で既に人生の半分以上の年月を消防団員として活動をさせていただいています。いわば、1つのライフワークになっているといっても過言ではありません。この先定年まではかなりの時間がありますが、その期間はしっかりと一員として活動していきたいと考えています。

○ 仕事のこと

去年5月より横浜市議員を勤めております。

長年の消防団員や町内会活動の経験から、大きな一つの自分の思いとして街の防災に積極的に取り組んでいきたいと思っています。今の仕事の立場からも消防団活動への一助になればと考えております。

○ 趣味のこと

消防団員としての活動がライフワークと言いましたが、実はもうひとつ私にはライフワークにしているものがあります。それは「神輿」です。街が盛り上がり一体となって担ぐ神輿は爽快であり、神輿を通じてたくさんの大切な仲間も増えました。私にとって大切な趣味というか活動です。

そして最近、10年ぶりにゴルフを再開しました。まだ全然下手です。

○ 家族への思い

妻に高校生の娘と中学生の娘がおります。長年務めさせていただいていることも理由の一つですが、家族にとっても私の消防団活動は仕事と同列の当たり前の存在であることを理解してくれています。支えてくれる家族の存在に大きな感謝の気持ちでいっぱいです。



私の消防団PRIDE

第4回 保土ヶ谷消防団第三分団 新藤班長

令和2年11月12日掲載

今年度より三分団3班の班長を務めさせて頂く事になりました 新藤 等です。

よろしくお願い致します。

私は、保土ヶ谷区常盤台の地で生まれ育って、幼稚園・小学校・中学校を区内で進学し、高校の土木科を卒業後、父親の経営する有限会社 新藤組に就職して一般土木工事業・舗装工事業に36年間従事し今は代表を務めています。

3歳の頃よりアイススケートを習い高校2年生まで神奈川スケートリンクでアイスホッケーをする日々、神奈川メープリーフと言うクラブに所属してアルバイトも神奈川スケートリンクでしていました。高校2年生までというのは、高校2年の時交通事故で右足首の骨を折り大好きなホッケーを辞めることになります。その後オートバイを卒業して車に夢中になり18歳で車の免許を取ったら昼はダンプトラック夜は乗用車で走り回り、多い時は週4日箱根に行きターンパイクや椿ラインを夜な夜な走り回っていました。その頃一緒に走っていた先輩達の影響を受け街道レーサーを卒業して富士スピードウェイに行く様になり、1985年から1988年まで富士フレッシュマンレース（KP-61スターレット）に参戦する事になります。この時期が自分に取って色々な意味で一番の勉強になった頃だと思います。真剣に物事にチャレンジする事、中途半端な事をしていると結果は出ない事、人間一人では何もできない事、仲間の大切さ、時間の大切さ、お金の大切さ、等々。

88年のシリーズ中に自分の限界を悟りレースはそこで卒業しました。それから結婚をし家庭も子供も出来て仕事一筋、今の仕事を無我夢中で頑張っ突っ走ってきました。

この消防団活動を始めたのは今までの自分のしてきた歴史がそうさせているんだと思います。自分勝手に色々な人に迷惑を掛けた分、今度は人に恩返しをする番が来たかな？って。

そう思う様になって38歳の時消防団活動を始めました。自分の思いは背伸びをせず身の丈に合った事をする。ゆっくりで良いから長続きする活動を目指しています。その中で普段の生活では教えてもらえない事や知っておいて損の無い事をいっぱい習得し、何かの時に役立てばと思います。3班は今年に入って新入団員が次々と集まり、あっという間に25名もの大世帯になりました。

新班長にはだいぶ重荷では有りますが皆さんのお力を借りてドン・ドン邁進して参りますのでどうぞこれからもご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

3分団3班は常盤台地区を担当しています。もし、この地域で消防団活動に少しでも興味を持った方は毎月20日の20時に詰め所で班会議を行っていますので是非大家族の所へ立ち寄ってみて下さい。今の自分の趣味はキャンプです。近い将来、車で日本一周をしたい。それが今一番の夢です。



私の消防団PRIDE

第5回 保土ヶ谷消防団第四分団 大森部長

令和2年11月26日掲載

保土ヶ谷消防団第四分団の大森です。訓練担当部長を拝命していて、訓練委員会と他に広報委員会も担当しています。入団してから20年近くが経過しています。

入団したのは、結婚して妻の実家の近くの保土ヶ谷区に引っ越してきた後、義理父に誘われたのがきっかけでした。近所に知り合いがいなくて、地域に馴染むためにはちょうどいいなと思い、入団を決めました。

消防団に入ると広報委員会の立ち上げに携わることができ、自分の班(西谷町が担当の第四分団第2班)だけではなく、他分団の方々とも交流することができ、多くの知見を得ることができて大変有意義に活動しています。

消防団には本当に色々な人がいます。大きくは自営業の方とサラリーマンに分かれるでしょうか。私は私企業に勤める会社員で、平日の日中は家にいませんし、地元から少し離れたところにいます。なので、平日の日中に地元で火事があると、私は現場に出動することができませんが、自営業の方で時間が取れる方は出動してくれたりします。

自営業の方には更に色々な業種の方々がいて、大工さんや水道工事やさん、家具やさん、印刷屋さんやガソリンスタンド経営の方などなど。変な話ですが家の修理や車の修理など、あらゆることを知り合いに相談できる環境というか人脈を作ることができてしまいました。

町内会にも関係していて、防災訓練等でお知り合いになり、スポーツ推進委員に推薦して下さって地元の子供らにドッジボールの指導をするようになったのも、元はと言えば消防団に入団したのが事の始まりでした。地元の消防署の出張所長と知り合いにもなって、じつは後輩だったりして驚いたりもしました。今でもFacebookで繋がっていたりします。

こうやって自分の世界がどんどん広がって行って、もちろん家族が一番中心にあって、人と人との繋がりが何重もの輪になって自分の周りにあるのを感じると、心強かったり、安心できたりするんじゃないでしょうか。

このコラムを読んでいただいて、少しでも消防団に興味を持っていただけたなら、是非仲間になってもらいたいと思います。

よろしく願いいたします。



私の消防団PRIDE

第6回 保土ヶ谷消防団第一分団 堀団員

令和2年12月10日掲載

私が消防団に入団したきっかけは、2012年の消防出初式を見学しているときのこと。近くにいた消防署員の方に声をかけていただき、その方から消防団の災害時に対応する訓練の内容やその他の活動についていろいろ話を聞くうちに興味がわいてきたのです。というのも私自身、前年3月11日に発生した東日本大震災の記憶が強く心に刻まれていて（今でも）、もし自分が大きな災害に見舞われた時、どのような対応ができるのだろうか？と自問自答することもあったからです。

当時は仕事（俳優業）もけっこう忙しく、映画の撮影が一段落したのを見計らって保土ヶ谷消防署に入団の申し込みに行きました。

私が入団した第一分団の二班は、とにかく団員一人一人のキャラクターが濃いのです。先輩団員（今はOB）の中には元は町内のお神輿の会だった人も多く、気っ風が良くてお酒も嫌いじゃない。ということもあって、花見、暑気払い、忘年会・・・といった飲み会のお誘いも（笑）

この濃い面々のエピソードを書き出したら1冊の本になってしまいそうなので、それはまたの機会にということにしましょう。

もちろん活発なのは遊びだけじゃありません！遊びと活動のメリハリをきちっとつけるのが我が班の特色です。他の班に負けないぐらい消防訓練にも積極的に参加し、また自主的な訓練（不定期）を行ったり、月に1度の班会議も開いています。

私自身は年齢のこともあり、覚えたことをすぐに忘れるし、訓練でも足を引っ張ることが多いのですが、そんな場面でも周りの団員が丁寧にフォローしてくれます。

前述のとおり私の本業は俳優です。警察関係の役は何度か経験していますが、残念ながら消防関係の役はいまのところ未経験です。今後は消防団員としての経験が活かせる仕事（役）がくることに期待しつつ、定年までは消防団を続けさせていただきたいと思えます。

新型コロナウイルスは目に見えない災害。いまは消防団の活動も制約されることが多いですが、引き続き感染予防のための「新しい生活様式」（1.身体的距離の確保、2.マスクの着用、3.手洗い）を取り入れながら、災害対応の活動を続けていきたいと考えています。



私の消防団PRIDE

第7回 保土ヶ谷消防団第二分団 長澤団員
令和2年12月24日掲載分

保土ヶ谷消防団第二分団第4班の長澤 剣といいます。

私が入団したきっかけは、海上自衛隊の予備自衛官の任期が切れたタイミングで何か別の活動をと思い保土ヶ谷消防団に話を聞きに行ったら、なぜかカワハギを振舞われたりして、歓迎されるがまま入団しました。

保土ヶ谷消防団は、横浜出身ではない私を地元を受け入れてくださって感謝の気持ちでいっぱいです。

是非とも恩返ししたいという想いがあり、消防団の活動をボランティアとは思っておらず、使命感で活動に参加しています。

自衛隊の時は、小銃を撃つ訓練の次に消火訓練がきつくても楽しかったので、やはり消防団でも消火活動で活躍したいと思っています。

私自身は、福岡県出身ですがテレビドラマの「あぶない刑事」を見て、横浜に憧れて住み着いた普通の男です。仕事は小さな船会社です。今も「あぶない刑事」の撮影現場でもある本牧を散策するなど、ハッピーに過ごしています。

また、桜木町に係留中の帆船日本丸のボランティアを楽しくやっております。船の帆を張る作業は、観光客の視線が集まる中でマストに登る緊張感が何とも言えない快感です。実は、妻と出会うきっかけでもあり帆船日本丸でのボランティア活動にも感謝しています。

家族には、消防団活動を理解し送り出してもらえていて感謝してはいますが、消防団＝飲み会というような誤解もあるようなので、そんなことはないと分かってもらいたいです。



私の消防団PRIDE

第8回 保土ヶ谷消防団第三分団 池田団員

令和3年 1月 7日掲載分

学生時代のお話です。

夜明け前のまだ暗い中、バイクで朝刊の配達に行く途中、見慣れぬものが過ぎ行く視界の端に映りました。「ん？」気になって引き返すと、隣の材木屋さんの入口にいつも積んであるゴミ袋から「えっ」チロチロと赤い炎…。「かっかっ！火事！？」

慌ててアパートに戻り（携帯電話のない時代です）119番通報です。「火事ですか？救急車ですか？」——当時、保土ヶ谷消防署から500m位のところに住んでいたの、私はてっきり保土ヶ谷消防署に電話がつながった、と思い込んでいました。——

住所を何度も聞かれ、でも、窓から見える炎はどんどん高さを増していきます。「早く消しに行かなきゃ！あぁ！」

電話口の人に 「いいから早く来て！！消しに行くから！！」

と叫んで電話を切り、バケツがないので食器の洗い桶に水を汲み、何度も往復して水をぶっかけました。

そのうちに消防隊が到着して無事に鎮火。君は第一通報者だから詳しく話を聞きたい、と警察の方に言われましたが朝刊の配達はまだだったので、無事に配達を終わらせてから警察署に行きますと、保土ヶ谷警察署で2時間位の調書作成に付き合い、その際、最近放火が増えているので怪しい人を見かけたら遠慮なく知らせて欲しい、といわれました。

そのまま続けて、今度は保土ヶ谷消防署で調書作成です。119番の際にしつこく住所を確認されたことに文句を言うと、横浜市内すべての案件を司令センターで集中的に受電しているので、“カナザワク”か“カナガワク”か間違えないようにしているとのこと。「なんだ、近くの消防署につながるんじゃないんだ」と納得しました。

結局解放されたのはお昼近くでしたが、大事に至らず良かった良かったと再び朝刊配達の日常に戻りました。

それから数日後、自宅アパート前に見知らぬライトバンが停車していて、運転席に怪しげな風貌の男が…。

「あっ！ひょっとして…！」

自宅に戻らずに、近くの公衆電話から110番です。

私「●●です。…かくかくしかじか…怪しい人が…」

警察「車のナンバーわかりますか？」

私「△△-〇〇です」

警察「あ、それうちの職員です」

私「は？……（落胆）あ。」

善良な女子大生だった私も、子育て終わって月日が経ち、このことをすっかり忘れて、今は消防団の一員です。

皆さん、消防団に入りませんか？

まだまだ活躍できますよ。＼ (^~^) /



私の消防団PRIDE

第九回 保土ヶ谷消防団第四分団 秋山団員

令和3年1月21日掲載

皆さんこんにちは。保土ヶ谷消防団第四分団一班の秋山高（たかし）と申します。

私は横浜市内で生まれ、ずっと市内に居住しておりますが保土ヶ谷区に転居してきたのは10年程前です。元々保土ヶ谷区に住んでいなかった私が保土ヶ谷消防団に入団させていただいたきっかけをお話いたします。

私は日本赤十字社神奈川県支部の赤十字奉仕団に所属しており、大きな災害があった際には赤十字救護班にボランティアとして参加し、被災地で赤十字救護所の設置、運営をお手伝いしてきました。

今までは自分の住む街以外の被災地で救護活動のお手伝いをさせていただいておりましたが、「もし、地元の横浜で大きな災害が起きたとき、私に何ができるだろうか。」と漠然と考えていました。

あるとき、居住地の町内会で「家庭防災員講習」の受講者募集がありました。町内会長のところに、ご近所の奥様から「秋山さんの旦那さんは救助隊？らしいよ」という謎のリーク情報があり町内会の代表として講習会に参加させて頂きました。

講習会終了後、消防署員さんから「消防団で活動しませんか？」とお誘いを頂き、「なるほど、災害があった時でも、平時であっても地元のお役に立てるのは消防団なのだ！」と、気づき入団の申し込みをいたしました。

入団するまでは、消防団員の皆さんは生まれたときからずっとその街に住んでいて、それこそ、小さいころからの幼馴染ばかりではないだろうか？、いきなり別の地域から越してきた私が皆さんになじめるのか？と、不安なところもありました。

私の所属する班には親子代々、お父さんもおじいさんも消防団員というメンバーもいますが、保土ヶ谷の出身でないメンバーもたくさん在籍しています。

入団してからは、地元出身でもそうでなくても、そんなこと関係なしで班のメンバー全員が「ウェルカム！」してくれました。

私は情報システム関連の仕事をしていますが、仕事が忙しい時など、なかなかスケジュールが合わず訓練に参加できない場合もあります。

そんな時には「訓練や行事に参加できなくて申し訳ないなあ」と思いますが、団員みんながそれぞれ違った仕事を持ち、普段は様々な場所で働いているので、「訓練や行事にいつでも参加できるわけではない。」と、全員がとてもよくわかっています。

入団後、団幹部から教えていただいた心構えは、

「消防団員として、今自分にできることを、無理せずできる範囲で協力する。」と、ということです。

なかなか時間が取れず少ししか活動ができなかったり、肝心の災害の時外出先にて参集できないときもあります。

それでも団員それぞれが、「街を守りたい」と少しずつ持ち寄った小さな時間が「街の人々の小さな安心」

につながっているのだと思います。

私には4人の子供がおります。

入団して驚いたのですが、子供の学校のお友達に団員のお子さんが意外に多いのです。

「〇〇くんのお父さんは消防団だよ。」と、子供から聞いて初めて「〇〇さんのお子さんもお友達なのか！」と、気づくことが多々ありました。

私の子供たちが「うちのパパも消防団員なんだよ。」と会話の中で胸を張る機会があるのなら、父親としてこれに勝る喜びはありません。

これが私にとってはひとつの「消防団 PRIDE」です。

未曾有の災害とも言われる新型コロナウイルス感染症の拡大がいまだに続いています。

第一線で戦われる医療従事者の皆様と、救急搬送業務や火災などの災害対応に携わる消防署員の皆様が何よりもご無事で日々の業務に当たられますよう心からお祈りいたしております。



私の消防団PRIDE

第10回 保土ヶ谷消防団第一分団 保田班

長 令和3年2月4日掲載

こんにちは、保土ヶ谷消防団第一分団の保田といいます。

普段は、設備関係の仕事をしております。

性格はせっかちで、何事もきっちりとやっておかないと気が済まないのですが、結構良い加減な所も持っているかなと思います。(笑)

趣味は、20代のころから始めたサーフィンで、今でも休みの日に時間を見つけては湘南や千葉方面へ波乗りに出かけるジジィサーファーです！

保土ヶ谷消防団へは、仕事で消防団器具置場の内装工事を依頼された際に、知り合いの団員さんに勧められたのをきっかけに入団しました。

仕事柄、いつでも地域にいられるわけではないため、火災に出場出来ず残念な思いをすることもあります。

真冬の夜の火災出場した時は、寒くて大変でしたが、いざ現場に到着すると寒さなどすべて吹き飛びました。災害は暑い時も寒い時も待ってはくれず、大変なことも沢山ありますが、何かささいなことでも、後方支援でも、力になれることが私の誇りです。

そんな私に家族は、災害へ出場する時には心配を、訓練などの時にはいろいろな協力をしてくれていて、とてもありがたく思っています。

特に、消防操法大会へ向けての訓練をしている時は週2～3回夜から訓練がありましたが、家族が支えてくれるお陰で頑張ることができました。

これからも保土ヶ谷消防団で地域に密着した防災力の一員として、訓練や研修で培った力を色々な場所で発揮し、地域を安全に、そして災害が起きた時には協力し合い、少しでも災害での被害を減らしていければいいなと思います。



私の消防団PRIDE

第 11 回 保土ヶ谷消防団第二分団 栗原副分団長

令和 3 年 2 月 19 日掲載

■ 消防団活動を始めたきっかけ

平成 4 年入団ですので、もう 29 年前になりますが、近所の同じ職場の先輩に誘われたのがきっかけです。それまでは、町内に消防団がある事自体知りませんでした。町内会活動にも参加した事もなく、入団にはとても不安がありましたが、入団してみると、当然ですが、顔見知りの町内会の方々ばかりでしたので、楽しく活動させて頂きました。

■ 消防団活動でのエピソード

約 15 年位前、近所で火災があった際、消防車のサイレンが響く中、自宅の屋上から見える火の勢いに見とれていたら、妻から、行かなくていいのと言われ、我に返り慌てて 出動したことがありました。初めて実際の火災で出動し、取水している消火栓付近の安全管理を担当。また、他の団員は家の中にいた歩けないご老人をおんぶって救出しました。実際の火災現場での緊張と火の恐ろしさを経験しました。

もう一つ忘れられない事があります。消防操法技術訓練会に向けて指揮者として、訓練を重ねてきた中、署長、団長による激励の日に、良いところを見せようと力が入ってしまったのか、肉離れをして、自分では大した事ないと思いましたが、日が悪かった、よりによって、激励の日、訓練場所が署、救急車は、そこに止まっている、無理やり救急車に乗せられ、病院へ直行しました。当然、消防操法技術訓練会には参加できず悔しい思いをしました。

■ 消防団でやりたいこと、目指すこと

長く消防団活動をしてきたおかげで、地元町内会からだけでなく、近隣の町内会からも、信頼を得られ、防災訓練、祭礼、年末警備等何かと相談されるようになり、これからも協力しあいながら活動して行きたいと思います。

■ 自分の事

消防団も定年まであと 3 年となり、思うように体は動きませんが、自分の出来る範囲で最後まで頑張っていきたい。

■ 消防団への熱い思い

二分団では最近 50 代、60 代の入団希望者がいましたが、インターネットによる入団申請で入団理由が二人とも、地域に貢献したいとの事でした。このような年齢でも地域に貢献したいとの熱い思いで入団を決意した方に敬意を表します。自分も地域に貢献したいとの熱い思い忘れず消防団活動をして行きたいと思います。

■ 家族への思い

消防団活動は、家族の理解と協力が不可欠です。いつも感謝の気持ちを忘れず、誇りを持って活動して行きます。



私の消防団PRIDE

第12回 保土ヶ谷消防団第三分団 星島班長

令和3年3月4日掲載

令和2年度より保土ヶ谷消防団第三分団第5班で班長を担当している星島 規能と申します。

消防団に入団してから3年と短い時間で班長となりましたが、班員・分団の方々からの温かい支援によりなんとかこなしております。

さて、私の入団のきっかけは地元のお祭りで神輿を担いでいる時に、近所の方より声をかけていただいたのが始まりでした。当時、保土ヶ谷区へ引っ越してきてから間もなく、お祭り以外で近所の人との付き合いも少なく、共に行動することがほとんどありませんでした。このお誘いに渡りに船とばかりに二つ返事で入団することになります。

消防団に入団して最初の活動は小型ポンプを使った放水訓練でした。右も左もわからず先輩方のサポート役。ご迷惑をおかけしながらも全うしました。その節はいろいろとありがとうございました。

消防団の活動というのは基本的に災害発生時に行うため、出勤する機会はそう多くありません。そのため普段は犬の散歩で消火栓とホースの位置を確認しながら歩くなどして、日夜アンテナを張りながら行動することを心がけています。まだ実際の火災現場に出勤して使うことはありませんが、いつでも活動できるよう玄関に活動服他一式を置いています。最後に、コロナ禍の影響により防災訓練や各種イベントが中止となっている昨今ですが、そんな中でも消防団の皆さんは可能な限り活動を続けています。

地元のために一肌脱ごうという方がいらっしゃいましたら是非消防団の門を叩いてください。私自身まだまだ技術的にも他先輩方の足元にも及びませんが、しっかりサポートしていきます。いつでもお待ちしております。



私の消防団PRIDE

第 13 回 保土ヶ谷消防団第四分団 松本副分団長

令和 3 年 3 月 18 日掲載

保土ヶ谷消防団第四分団の松本です。現在第四分団副分団長と救命委員長を拝命しています。

入団のきっかけは・・・同じマンションに住む消防職員さんにうまく丸め込まれたのかと(笑)

家庭防災委員の研修で初めて救命講習と出会い「これはみんなに知らせなくては！」とマンション防災委員会に提案しました。そしてその年はマンション居住者 30 名以上が上級救命講習を受講しました。その時同じマンションの消防職員さんから「松本さん、消防団に入って応急手当指導員を取れば、都合のいい時期に救命講習開催できるよ！女性団員は団本部付きだから活動も少ないし、心配しなくても大丈夫！大丈夫！」と言われるがままに入団。ところが入団した 4 月から女性団員も班で男性と同じ活動に！！とりあえず出来ることは何でもやって見ようと始めたら・・・いつの間にか消防団活動にハマってしまいました(笑)

分団本部部長に昇任したときは、久保田団長から「救命だけではダメだ、活動マニュアルを毎日見て勉強して！」と言われましたが資機材関係はチンプンカンプン・・・ところが平成 28 年に行われた平日夜、長期間にわたる「諸能力訓練」に参加しているうちに、いろんな事がわかるようになり、苦しさの中にも楽しさが芽生えて来ました。「現場指揮課程」では車を持っていないので他分団の方をお願いして乗せて行ってもらったり、「分団指揮課程」ではいままで漠然としか見えてなかった活動も、少しずつ理解できるようになりました。

その後、県の「女性団員だけの大規模災害訓練」では指揮本部を担当させていただいたり、2018 年には全国に先駆けて大規模災害に特化した「神奈川県災害救助訓練場」を使った大規模災害訓練にも参加させていただきました。これは実際に倒木の下敷きになった人(人形)をチェンソーで木を切って救助したり、コンクリートで塞がれた入口をエンジンカッターやストライカーで破壊して救助するものでした。黒岩神奈川県知事をはじめとした方々の前で、女性団員のパワー爆発！「女性だからってバカにしないでよー！」の思いを胸に県内の女性団員と一致団結して展示を終了しました。私は常日頃から他都市の消防団員の皆さんからの情報収集も大事にしています。横浜市ではコンプライアンスの関係で活動は SNS に載せられませんが、 teisuisutorener? 何? という時も「田んぼの用水路を使って低水位ストレーナーの練習をしました！」という投稿を見て使い方を教えてもらったり、新潟県新発田市の団員さんからは、「大火事で 80 本ホースつないだよ！人が足りないから新人は現場で覚えてもらっています。」など、遠距離送水も半端ない本数で、山もあるからポンプの圧も考えながら・・・など、常備消防が少ない地域ではこんな内容を分団長がすべて指示出ししていることにビックリ！

横浜市は恵まれているなあとつくづく感じました。その後、新発田市消防団とは保土ヶ谷で意見交換会も行われ、地域によって求められることが違うことも実感しました。保土ヶ谷消防団は団本部をはじめとして、女性団員の活躍をとて評価してくれる消防団です。コロナ渦ではありますが、収束後の活動では「こんな訓練がしたい！あんな研修がしたい！」をメモメモしながら活動再開を待ちたいと思います。

